

Episode 悲劇の結婚記念日

1914年6月28日はボスニアの首都サラエヴォで、オーストリア皇位継承者フランツ＝フェルディナントと妻ソフィーが暗殺され、第一次世界大戦の発端となった日であるが、この日は二人の結婚記念日でもあった。1900年のこの日、フランツ＝フェルディナント大公は、伯爵令嬢ソフィー＝コテックと結婚したが、「それは、沈みがちな、悲しい婚礼であった」。大公はハプスブルク家の後継者であり、やがてオーストリア皇帝・ハンガリー王となるべき人であったが、ソフィーは平凡な伯爵令嬢にすぎず、ハプスブルク家の婚姻としては許されないものであった（ハプスブルク家はそれまで外国の王女クラスを皇后として迎えるという婚姻政策でヨーロッパ随一の勢力にのし上がってきたのだ）。そのため、ソフィーは宮廷の公式行事には出席できなかった。しかし、大公は妻を深く愛していた。彼が妻を公式行事に同道できるのは、陸軍元帥として軍隊の観閲をするときだけだったボスニアでの閲兵式に妻を同行し、オープンカーに乗せたのは、ソフィーに皇位継承者夫人としての栄耀を楽しんでもらう唯一の機会だった。そして、その日が結婚記念日であった。「大公は、愛すればこそ死に赴いたのである。」<A. J. P. テイラー『第一次世界大戦』1963 新評論 P11-12などを参照>

フランツ＝フェルディナントとゾフィーの結婚の経緯は、江村洋『ハプスブルク家の女たち』1993 講談社現代新書 p.181～ 第7章 命をかけた「帝冠と結婚」に詳しい。

(『[世界史の窓](#)』)